

だれもが自分らしく、ともに支え合い  
安心して暮らし続けることができる まち  
「こもろ」 を目指して



『障がいのある人が「生きにくい」と感じるのは、健常者よりも「生きにくい場所」が多いというだけな気がしています。その「生きにくい場所」が減るといいなと思います。「安心して、ここに居ていいんだ」という場所が増えたらいいなと思います。』

この言葉は、令和3年度から6年間の、本市における障がい者施策の総合的な基本指針として「小諸市障がい者プラン～障がい者施策に関する第5次福祉行動計画～」の策定にあたり、障がいのある皆様へのアンケートからいただいた御意見です。

本プランは、障がいのある・ないに関わらず市民一人ひとりが、「安心して、ここに居られる まち こもろ」を目指すために、「障がい」を理解し、お互いを尊重し、お互いの思いを共有し深め合い、支え合う心を醸成するため、「心のバリアフリー」を推進し、地域共生社会を実現するために策定しました。

この度、本プランの中で、3年を1期とする「第6期小諸市障害福祉計画及び第2期障害児福祉計画」が満了を迎えることから、障がい福祉サービス見込量等を見直し、前期計画の実施状況を踏まえ、障害福祉サービスや地域での生活支援提供体制と、障がい児支援提供体制の確保について、令和6年度から8年度までの計画期間に取り組むべき施策の目標等を数値化した「第7期小諸市障害者福祉計画」及び「第3期小諸市障害児福祉計画」を見直し、策定しました。

それぞれの計画に盛り込みました各施策について、関係機関やサービス提供事業者の皆様と協力し着実に取り組み、「安心して、ここに居られる まち こもろ」と、健幸都市こもろ（小諸版ウェルネス・シティ）の「全ての人のいのちが輝くまち」を目指してまいりますので、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

結びに、本計画策定にあたり、ご尽力いただきました小諸市障害者計画等審議会委員の皆様をはじめ、貴重なご意見やアンケート調査にご協力をいただきました市民の皆様にご心から感謝申し上げます。

令和6年3月

小諸市長 小 泉 俊 博